



第3回協議の場は、前回までの話し合いで出てキーワードを元に、現場見学に出かけました。

介護・子育て支援の現場・お米を作っている現場・遊休地を利用して蕎麦をつくっている現場。

会議室の中の議論とは違い、実際の現場で見て、聞いて、触って、吸って、味わって…初めての発見や感動があったとご意見をいただきました。

地域をつむぐ「縁結び人」養成塾 実践研修モデル協議の場①阿久比町

現場見学 1, 2

全体での意見交換 2

ファシリテーター、事務局より 2

アンケート 3, 4

2012. 11. 29

NO. 3

「みんなで作る あぐいの夢事業」

協議の場ニュースレター

平成24年11月7日(水)9:00から、「大人の遠足」と題して各現場見学に行きました。まずは、介護、子育て支援をされている現場、お米をつくっている現場、遊休地を利用して蕎麦を作っている現場に行ってきました。

■現場見学「特定非営利活動法人もやい」



・高齢者を中心とした日常生活支援事業として、15年前に有償のサービスを開始。2000年に介護保険事業も始めたが、少し赤字が減った程度。一番最初に移送を頼まれたことから今も継続して実施している。

・財団、社協、基金、企業、助成金など多方面から、テレビ、ソファ、トイレ、キッチン改装、ミストシャワー、車など寄附をもらっている。

・知多信用金庫の夢サポート事業なども活用しながら、牛小屋を改装してもーちゃんハウスを作った。月2回麻雀をしたり、夏休みは子どもを対象にした講座を行ったりしている。また、部屋貸しも半日1000円で行っている。

・NPO法人なので、収支や事業の報告も毎年しっかり県に提出し、ホームページにも公開されている。小さい団体のため、次の事業をしていくのは、経営的に課題がある。NPO法人も会社と一緒に納税が必要。儲けてはいけないわけではない。ただ、利益の再分配はできないというだけ。その分は、社会に還元している。昨年は参加費無料の15周年記念の会を開いた。

■現場見学「稲葉さん作業場 & アイガモの家」



・米に関する機械と、米の作業に関する機械が揃っている。12年かけて揃えた。この機械(玄米まで作れる)で4000~5000俵作れる。自分のところの米だけではなく、他の農家さんが持ち込んで利用する。

・生産者米価と消費者米価がある。生産者米価は卸価格。消費者価格は、一般の消費者が購入する価格。生産者米価は、食料管理法の名残で需給に影響せず月に1回、価格競争センターで決定される。自分は消費者に対して直接販売している。生産者米価で売るか消費者米価で売るか、売上額は全然違う。

・アイガモは、十数年前に他の農家との差別化で始めたが、あまり販売値を高くしても売れないので、買える範囲の値段設定にしている。

・合農家は1~2億円投資しないと、始められない。お金の感覚がおかしくなる。

■現場見学「株式会社アグメント 蕎麦畑」



↑社長 今津哲次氏が説明して下さい

・面積1.5ヘクタールほど。愛知県のゼロエミッションに関する助成金を使って、遊休地で牧草を育てる予定だったが、せっかく循環を目指すなら人に食べてもらえて、花も楽しめて、生態系にもやさしい蕎麦へ変更した。採算は合わない。

・蕎麦は植えてから75日で収穫する。9月に植えて、10月が花の見頃となり、11月に刈り取る。夏蕎麦は4月に種を撒く。

・蕎麦は水揚げがいい土地でないといけない。茎の中が空洞なので、一回折れると立ち上がらない。やせた土地でも作れるが、おいしく作るには肥料もいる。うちは有機で作っている。蕎麦は雑草に強い。

・蕎麦は1反収穫すると、100キロ穫れる。借りたときは耕作放棄地を通り越した、荒地地となっていた。木が生えて、がれきが散乱していた。それを半年かけて土を作った。

・収穫したものを『知多美人蕎麦』として、売り出し中。

■全体での意見交換

今後、子どもの一時預かり等のニーズが増えると思う。

見学しながら、自分は何ができるか考えた。

阿久比の何もないところが個性だと思う。何もない中で、畑や田んぼなど農作物の生産地としての特性をいかしていくことを考えた。

もやいの古民家を活用していたのは、今後の空き家対策としてはいい事例。NPOへの企業の支援がいろいろあると知り、うちも何かできないかと思った。

稲葉さんや蕎麦畑は、地元の食・地産地消という視点で、社内弁当などに取り込めないかと感じた。

社員も地域に対し親しみを感じるのではないかな。

もやいの活動に敬服した。稲葉さん、アグメントの仕事は、農業人として農家は今大変だという共感を持った。阿久比の名産となることを応援したい。

“農業”というと、田んぼと畑と思いがち。しかし、酪農、養鶏、施設野菜、果樹などがあることを認識した。次は、デンソーさんに行きたい。

中学2年生の職場体験で連携できたらいいと感じた。蕎麦畑や鴨など、小学生が小遣いを握って街歩きできたら、おもしろいと思った。

阿久比町のことをもっと知る事が大切。行政職員にこそ、見てもらいたいと思った。

みなさん信念を持って事業をされていた。阿久比には、若い世帯が入ってきているので、米粉・蕎麦粉を使って、親子クッキングを企画する等して、町民に知ってもらいたい。

■ファシリテーター、事務局より

・第3回協議の場では、みなさんにご協力いただき、感謝しております。稲葉さん、株式会社アグメントさん、NPO法人もやいさん、ありがとうございました。そば甘酒、ごちそうさまでした！

・第4回 11月29日(木)9:30~12:00 阿久比町中央公民館です。

★そば甘酒→



・柳野さんからご提案いただきました“望年会(ぼうねんかい)”を12月12日(水)19~21時で開催したいと思います。

会場は、NPO法人もやいの施設をお借りします。是非、みなさんで食事をしながら語り合しましょう!!

■参加者アンケート

1、各訪問先でのご感想をお書きください。

【特定非営利活動法人もやい】

- ・昔の民家を改装して利用されているところが施設感がなく、温かい雰囲気がとてもよかったです。私も年をとったら来たいと思うほどでした
- ・女性の活躍にいつも圧倒されます
- ・多くの皆さんに多くの事業を提供され、感動しました。安井さんの元気には敬服します。いつまでも続けていただけることを願っています
- ・“くらしの小さなお手伝い”すてきな言葉ですね。小さなお手伝いをするにはたくさんの人手が必要です。多くの人が少しずつお仕事をされて、多くの手にするにはやはり人とのつながりが大切なのですね
- ・話や資料ではもやいさんの活動等を知っているつもりでしたが、ほんの一部であることを知りました。また、実際にお邪魔して苦労や工夫を知ることができ有意義でした
- ・思いを形にするパワーに改めて感心しました
- ・「物」は意外といろんな団体が今助成されていますが、やっぱり「人」を育てることが大事だと感じました
- ・活動内容を知ることができました
- ・NPO法人の10年後20年後先の課題は？
- ・近くに住んでいながら、情報をほとんど知らなくてはずかしい限り
- ・直接活動に携われなくても賛助会員として多くの人に協力して頂けたらいいなと思いました。ファミリーサポート制度について考えさせられた
- ・現在各地で古民家の空き対策が課題となるが有効活用され、素晴らしい
- ・何度かお邪魔していますが、いついっても入りやすい、居やすい雰囲気(自分のおばあちゃん家みたいですね)たぶんそれは、建物の作り方もそうだと思いますが、いつ行ってもスタッフさんの人柄も大きいと思います。近くの方にも意外と知られていないと、びっくり。NPOと地縁、テーマ型組織と地縁組織の交流みたいなところ(矢勝川彼岸花と植地区とか)、もっと伸ばしようがあるトコロだと思いました。(そのために自分は何ができるだろうかと・・・)
- ・収益を考えない事業活動には頭が下がります

【稲葉さん作業場】

- ・アイガモ農法がそんなにも大変だとは知らなかったです。後継者の問題は深刻だと思いました
 - ・アイガモのことがよくわかりました
 - ・同じ農業者として、信念を貫いてみえる稲葉君の姿が見えました。これからもがんばっていきましょう
 - ・農業をつづけていだけでも大変だと聞きます。アイガモを大切に育ててお米を作るには私が思う以上に大変だと思いました
 - ・毎年夏に研修でお邪魔していますが行くたびに知ることがあり、1回2回ではほんの一部しか知ることができないことがわかりました。どの仕事も、奥が深いなと思いました
 - ・稲葉さんの仕事に対する熱意や普段知る事のできない農業のしくみについて考える機会になりました。アイガモについての認識も変わりました
 - ・本日見学ができることを楽しみにしていましたが、想像以上の見学となりました
 - ・アイガモも農作業場も今まで経験したことのない世界で新鮮でした。政府に売る米の値段をお聞きして驚きました。苦労に見合う価格が補償されない限り農業の発展はないなという感想です
 - ・アイガモ農法という自然と共生する農法は、れんげと共にもっとPRしたら良いと思う
 - ・お邪魔したのは、2回目です。私は米を主食としている日本人なのに、知らないことばかり、毎回教えていただいています。稲葉さんはホント色々考えていらっしゃる。町全体として農業の問題が解決しない、あまり進んでいないのは、逆に稲葉さんみたいな方は町内ではまだまだ少数派なのかなと・・・。せめて、町内のできるだけ多くのご家庭に・ひとに、自分の地域でとれた阿久比のおいしい米が口に入るようなことができればと。6次産業？「お米を食べよう。せっかくだから町で獲れたお米を食べよう」詳しくないので、判らないのですが、農協さんはどう考えているかなと。(具体的にどんな取組をされているのかなと。)
 - ・生産に対するしっかりした考え方が伺えます
- #### 【株式会社アグメント 蕎麦畑】
- ・みなさんに来ていただく機会をいただきありがとうございました

- ・阿久比の端っこにあんなに広い蕎麦畑があるなんて知りませんでした。阿久比のそば粉と米粉で阿久比らしいスイーツなど作れたらいいですね
- ・とても広くてびっくりしました。アグメントさんは、学校給食の残菜処理をお願いしていることは知っていましたが、その後を知ることができました
- ・初めてそば畑を拝見しました。そばをツールとして、いろいろな企業や団体とコラボされていることを現場で実感できました
- ・初めて見せて頂き、花が咲くときにまた見学したいと思いました
- ・農産品(生ではなく加工品)として、特に生活者、消費者として“食”という切り口で考えたい
- ・休耕地を利用した新しい事業でこれからの発展を期待します
- ・町内の休耕地の活用は横展開の可能性が充分あると思う(中高年層の方の活用もあり)
- ・はじめてお邪魔しました。結構な広さでびっくりしました。花の時期は凄く綺麗だろうなと。観光とは行かないものの、町内の名所としては、いいところ。周りに何にも無いし。花の時期だけでもちょっとしたイベントやるのも良い。自分はそばが少し苦手なので申し訳ないですが、好きな方って結構いますよね。阿久比の「おみや」としていいかも(蕎麦の賞味期限って結構あるもの?)ガレットとか本当に面白い。阿久比高校生とかにも受けそう。
- ・蕎麦粉の今後の活用に期待します。いつも新しい分野の事業に取り組む姿勢に頭が下がります
- ・広い畑をみて、管理が大変だなと感じました。種まきから収穫まで収穫からそばとして食するまでの大変な作業ご苦労様。すばらしい事業ですね。

2、ご自身のお仕事や活動と連携や協働できそうなことがありましたらお書きください。(確約されたものではなく、思いつき程度のアイデアで構いません)

- ・もやいさん、稲葉さんと連携して何かしてみたいです。まだ具体的にはイメージできませんが、可能性がありそうです
- ・男性高齢者の生活を支援するアイデアをもやいさんの取り組みから勉強していきたい
- ・農業の持つ魅力とパワーを発信する場に、稲葉農場やアグメントさんもさらになってください
- ・そば畑で、婚活イベントができればいいかな？(思いつきです)
- ・そば粉と米粉を使った親子スイーツ教室…なんてできたら食育に役立つかなと思いました(金ごまなども)阿久比産の農作物を使って、阿久比の良さを町民にアピールできたらいいですね。
- ・中2の職場体験は、阿久比ならではの職業、阿久比に根づいた職業・職場を紹介することもよいと思いました
- ・阿久比の中の人づくりについて、どう支援するかということでは、是非お手伝いしたいと思います。また廣口さんと話をしながら、是非阿久比の役場職員・社協研修の職員の研修して『阿久比を知る』ことが改めて重要かと感じます
- ・今すぐというわけではありませんが、こういった活動をもっともっと『情報発信』できたらと思いました
- ・“MADE in AGUI”のブランド化(農産物に限ることなく)
- ・農産物・産品を提供する場所、方法
- ・阿久比町食育会議メンバーでもあり、今までは阿久比町の伝統料理の話に終始していましたが、新しい阿久比の食に関する提案ができそうな気がします。
- ・れんげちゃん、美人そばの所内での更なるPR及び販売会の機会提供
 - ※設問とは無関係ながら…そば畑で「そばに寄り添う」という語呂合わせからくる婚活イベントの話は面白い。他に、あいがも農法の「愛」、あいがもの連れだって行動することを前面に出した婚活も面白いのでは？
- ・個人的な想いとしては、だれでも気軽に行ってみよう、参加してみようと思える、場所が欲しいなあと(今日お邪魔した場所、それぞれがホント光ってました。けれど、共通して言える事は、個人ではなかなかいけない場所であったり、不便な場所であったりと・・・)やっぱり誰でも行きやすいという面では駐車場とか大事、広いスペースとか欲しいし、まちににぎわいを求めるのであれば、やっぱり部屋の中(施設の中)というよりは、そとでやりたい。(雨など心配もあるけど、そとにできれば阿久比って都会に比べればまだまだ空気が澄んでいる！それに、知らないで近くを通ったひとにも影響を与える)市場？マーケット？そんなイメージで大きくつなげる。(でも、従来の産業祭りとは違うイメージなのです)阿久比町のいいところって、おとなしいけど、やっぱり、みんな優しいし、知り合いみたいなところが長所だと思います。(第1回目のアピタにいくと声かけられるみたいな・・・話)それはたぶん小さいまちだし、昔からの顔が見えるお付き合いみたいなものが、町全体(町全体ってこれって案外すごいこと)でやろうと思えるコンパクトさ、そこを引き寄せる「磁場」が創れないかと思いました。
- ・阿久比米や蕎麦粉を使って、阿久比を代表する特産品を開発したい

発行・お問い合わせ先:地域福祉サポートちた
〒478-0047 知多市緑町12-1 知多市市民活動センター1階
TEL 0562-33-1631 Fax0562-33-1743
E-mail spchita@ams.odn.ne.jp 担当:江ノ上